

「まあ、いまのひとは、なんて、ふしぎなひとでしょう。はじめから、そういつてくれば、こんなにびっくりしないのに。おしまいまで、ちっともくちを、きかないなんて、へんなひとなこと...」と、ひとりごとをいっているうちに、ふうせんは、てつのおしろのなかの、ひろいおにわのまんなかへ、ふんわりとおちました。ひめは、ほんとうにあんしんして、そこにしいてある、しろいすなのうえにおりましたが、ふうせんは、そのままちいさくたたんで、ぽけっとにしまっておきました。そのうちに、ひめのまわりには、てつのおしろの、てつのもろいをきた、へいたいさんが、たくさんにあつまりましたが、ふしぎにも、ひとりも、くちをきくものが、ありません。だまって、ひめをつれて、おうさまのまえに、つれていかれました。おうさまと、おきさきさまは、てつのおしろのなかの、お

おきな、おおきな、てつのへやのなかの、た  
かい、たかい、てつのだいのうえに、まっく  
ろなきものをきて、てつのかんむりをかむっ  
て、てつのいすに、すわっておりましたが、  
そのへやじゅうのものは、てつのかべも、て  
つのゆかも、てつのはしらも、てつのでんじ  
ょうも、それから、いっぱい、ならんでい